

# 栃の木からの手紙

2022年 文月 7月号



2日： 半夏生  
7日： 小暑：  
14日： 満月 旧6月 14日  
23日： 大暑  
29日： 新月 旧7月 1日

大暑に向けて作物も雑草も急成長

2022年 赤ビーツ育苗記録 有機JAS仕様  
(1回毎の播種量は、128穴トレイ40枚)

	1回目	2回目	3回目	4回目
4月1日	播種			
4月13日		播種		
5月2日	間引き			
5月16日	移植	間引き	播種	
6月1日	補植			
6月4日		移植	間引き	播種
6月12日		補植		
6月27日			移植	間引き
7月9日				移植
7月11日				移植完
移植畝	4列	5列	4列	5列

2022年 7月23日  
オホーツク高橋農場

- ・ 1列200m 0.2m間隔で1000本苗使用。
- ・ 1回毎の苗は、128×40枚 = 5120本
- ・ 1回の苗作りで使用できるのは85%くらい。
- ・ 1回の苗作りで4.5列移植できます。

月	4月					5月					6月					7月											
	1	5	10	15	20	25	30	1	5	10	15	20	25	30	1	5	10	15	20	25	30	1	5	10	15	20	25
1回目	1 播種					移植 16																					
2回目	13 播種					移植 4																					
3回目						16 播種					移植 27																
4回目											4 播種					移植 9											

塔立ちの数

7月11日	41	4	2	0
7月22日	105	25	2	0

使用資材 有機育苗土 ゆうきくん 使用量 10枚/1袋 残数 16袋  
種 デトロイトダークレッド 使用量 2g/1枚 残数 0袋

今年の赤ビーツは、販売の優位性を考慮して全量有機JAS仕様で栽培しています。また、次期をずらして4回播種をして、今まで気になっている塔立ちの状況を確認中です。作業量を考えたらある程度の量で分割した方が作業が楽だと思います。

苗作りの土は、有機JAS専用の育苗土を使い、浴光ハウスにテントを敷きその上にミニコンを並べてからビーツを播種したトレイを並べています。播種時期に合わせてシートやビニールを掛けて管理しています。



昨年は、4列移植するのに4人の研修生の手植えで7時間掛かりました。しかも、足腰が痛くなります。



4月1日 1回目 播種



今年の1回目の移植作業は、こんなに明るい感じ。新規導入した移植機を使って5時間近く掛かってしまいました。問題は苗取り。移植後は、早魃問題。

5月16日 1回目 移植



4月13日 2回目 播種



2回目は天気との駆け引き。雨が降ったり止んだり。前回の苗の間引き作業をしてから今日使う苗をトレから外す作業をハウス内で行い意を決して移植作業。

6月4日 2回目 移植



5月16日 3回目 播種



2回目の移植は2時間で終了し、残った時間で4回目の播種作業。3回目の移植は、最低速度で一人作業。これでも、大体2時間作業。

6月27日 3回目 移植



6月4日 4回目 播種



4回目の移植は、夕方5時過ぎ。移植後の培土を考えてうねを低くした為作業性が悪くなり19時半過ぎ暗くなり止めました。家族作業。

7月9・11日 4回目 移植

